

郷土かみのかわの歴史・文化財

多功家350年の支配の証 多功家累代の墓

中世の上三川を語る上で、上三川城と多功城は決して忘れることはできません。下野国の有力者として、宇都宮城を拠点に帯を治めた宇都宮氏が、南の要衝に設置したのが、この二つのお城です。1240年代に相次いで築かれた両城は、軍事・交通など様々な面で重要だったことから、宇都宮氏一族が城主となり、1597年の豊臣秀吉による宇都宮氏改易までの350年にわたって、地域を支配し続けたのです。



五輪塔が整然と並んでいます。

この両城のうち多功城は、1248年に第5代宇都宮城主宇都宮頼綱の子供、多功宗朝によつて築かれ、以後、多功氏が17代に渡つて城主を務めました。当時の武士は、祖先の霊を弔うために寺院を建立し、墓所を設けました。多功氏は見性寺を建立し、菩提寺としたのです。この墓所には鎌倉時代から室町時代に至る五輪塔と、後に作り変えられた五輪塔が整然と並んでいます。高さは約50cm、幅は22cmと私たちが想像する



多功城主の気風が漂う五輪塔。

城主の墓としては質素なものです。宇都宮氏の南の要として勇名を轟かせた、多功氏の気風をあらわしています。

五輪塔は、遺骨を納めた塔ですが、小規模のものは遺骨を納めるためではなく、供養塔として作られました。塔は下から基礎・塔身・笠・請花・宝珠と呼ばれ、それぞれ地・水・火・風・空を表しています。基礎である地輪には塔が建てられた意味、記された年代、施主名が刻まれます。多いですが、多功家累代の墓は、凝灰岩という軟らかい石で作られているので、長年の風雨によつて風化が進み、残念ながら字を読むことができません。

1597年の宇都宮氏改易によつて所領を失った多功氏は、その後、伊予今治藩主松平氏に仕官します。武士として生きるために、祖先が眠る菩提寺があり、多くの家臣が残る多功の地を離れなければなりません。しかし、多功氏の子孫たちは、藩主が日光社参で近くを通る機会があったときには、菩提寺であ

る見性寺に使いを遣わし、祖配の証であるのはもちろん、先を弔うことを決して忘れませんでした。多功家累代の墓は、中世における多功氏の支

できごと

安土・桃山時代			室町時代							鎌倉時代			時代					
1597	1590	1586	1572	1558	1549	1512	1467	1455	1454	1438	1380	1336	1334	1333	1220	西暦		
慶長2	天正18	天正14	元龜3	永禄元	天文18	永正9	応仁元	享徳4	享徳3	永享10	康暦2	建武3	建武元	正慶2	正応5	弘安5	宝治2	承久2
宇都宮氏改易、多功城廃城。			多功房朝、多功城に押し寄せた、北条氏政の軍勢と多功城主多功石見守、北条氏政軍と古賀志にて戦							上杉謙信勢の佐野城主佐野豊綱が多功城に攻め入り、多功城主多功長朝はこれを討ち取る。			多功宗朝、生まれる。			できごと		
豊臣秀吉、小田原征伐。多功城主多功綱継、宇都宮綱の名代として、相模笠懸山の秀吉陣所に向く。			喜連川五月女坂の合戦。多功長朝、房朝親子が奮							芳賀一族が宇都宮成綱に反抗して宇都宮錯乱状態			足利尊氏、京都に幕府を開く。			多功宗朝、城主となる。	遠く離れた地で武士として生	
			鎌倉公方足利成氏、関東管領上杉憲忠を誅殺、関東							宇都宮基綱と小山義政が裳原(宇都宮市茂原)において合戦。宇都宮方敗れる。			多功宗朝の三男朝定、分家し児山城を築く。			きた多功家の子孫にとつては、		
			鎌倉公方足利成氏、鎌倉から古河へ移る。							永享の乱、幕府、鎌倉公方足利持氏を討つ。			多功宗朝死去。			特別な場所だったのです。		
			応仁の乱始まる。							鎌倉幕府滅亡。			建武の新政。					